

1月19日（月）

人々をイエス様に導く

聖書朗読 ヨハネ 12:20～29

それからイエスは、弟子たちのほうに向いて、ひそかに言われた。「あなたがたの見て
いることを見る目は幸いです。 ルカ 10:23

過越の祭りが近づいてくると、エルサレムの町はとてものにぎやかになりました。そこには、人々が見物したり、楽しんだりすることがたくさんあったからです。神を恐れるギリシヤ人たちは、多くの方法で、慌ただしく過ごしていました。彼らはまた、イエス様を探しに行きました。彼らは、その捜査を手助けしてくれる人物が誰かを知っていました。そして、イエス様を一番良く知っていた一人であるピリポを探し出しました。彼らは言いました。「先生。イエスにお目にかかりたいのですが」。ピリポの答えはもう一人のイエスを良く知るアンデレを探しに行くということでした。

アンデレとピリポは、すでに人々をイエス様に導くことで知られていました。ここで、ピリポがアンデレを探して、一緒にイエス様のところに話に行ったということは、興味深いことではありませんか？

今日、人々がイエス様を求める時、彼らはあなたや私のところにやってきますか？人々は、私たちがイエス様の友であるということに気がついていませんか？彼らは、イエス様が私たちの内に生きておられるということを見ていますか？私たちの人生は、イエス様を知っているということ表現しているのでしょうか？

誰かが「イエス様にお会いしたい！」と言った時、あなたはその人を導く用意が出来ますか？もし、自分自身は他人を導くことに充分自信がなかったとしても、ピリポがしたように他の優れたクリスチャンの友達の中からアンデレのような人物を紹介することは、私たちにも出来るのではないのでしょうか。

讃美歌 第二編 36

祈り 愛する天のお父様。ピリポとアンデレの話から、私たちが学ぶことが出来る機会を与えてくださって感謝します。私たちの周囲にいる人生の意味を追い求めている人々に、目を留めることが出来ますように助けてください。
イエス様のみ名によって。アーメン。

リンダ・ウェスブルック
テネシー州 ホワイトハウス

今日の力

2015年 1月19日～1月25日

翻訳 山田エミ

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

1月20日(火)

イエス様の代表としての愛情表現

聖書朗読 ヨハネ 13:12～27

次にはこれです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』この二つより大事な命令は、ほかにはありません。 マルコ 12:31

ある晩、レベッカは一人の友人と共にコーヒーショップにいました。その友人はレベッカの最近の仕事の昇進のせいで、彼女の性格が変わってしまったことを心配していると伝えました。彼女はそれが伝えられるまで、全ては順調だと思っていました。ところが、彼女の友人はレベッカの心が高慢になってしまったのでないかと心配していたのです。

その帰り道、レベッカは恥ずかしさと罪の意識で心がいっぱいになりながら、家路につきました。彼女の友人はとても正しい人でした。レベッカはその友人が正直にその気持ちを伝えてくれたのでとても感謝しました。

ヨハネの福音書13章には、イエス様が全ての弟子に対してなさろうとしていた美しい行為に対し、ペテロの自尊心がそれを阻もうとしている様子が描かれています。

ペテロは、イエス様から足を洗っていただくということを拒否します。しかし、イエス様は断固としてペテロの要求に応えようとはされませんでした。

イエス様が弟子たちの足を洗うとした時、そこに真実の愛と謙遜の心が現れています。今、目を閉じてみてください。そして、あなたがこの愛情に満ちた美しい情景の中にいることを想像してみてください。イエス様を手本と考えてみてください。イエス様があなたの足を洗ってくださり、そして、あなたも他の人の足を洗うということを想像してみてください。

讃美歌 234

祈り 素晴らしい神様。あなたが私たちを愛し私たちに仕えて下さっているように、私たちもあなたを愛しあなたにお仕えする気持ちを持って、御前に立ちます。お父様。どうか私たちが、創造された時のように、あなたの御子のように、なれますように。他人の足を洗うためのどんな機会にも私たちが率先して関わることが出来ますように。

あなたの愛おしい御子の御名を通して祈ります。アーメン。

エミリー・L・タウンゼント
テネシー州 ナッシュビル

1月21日(水)

言 い 訳 し な い 愛

聖書朗読 ヨハネ 13:31～38

あなたがたに新しい戒めを与えましょう。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。もし互いの間に愛があるなら、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。

ヨハネ 13:34～35

聖書の中の「互いに」という言葉は、私たちの毎日の人間関係の中でとても役に立つものです。新約聖書には、その言葉が本当にたくさん散りばめられています。ローマ人への手紙12章10節では、私たちは兄弟愛をもって心から互いに愛しあうようにと教えられます。また、同じく15章7節では、あなたがたも互いに受け入れるようにと勧められます。ガラテヤ人への手紙5章13節では、愛をもって互いに仕えなさいと。そして、エペソ人への手紙4章32節では、お互いに親切にし、心の優しい人となるように、と書かれています。

これらの聖句は、とても簡素で、直接的で、無条件です。人間として、私たちは会話の中で、最初は自信満々にできますが、その後「だけど・・・」と付け加えてしまいきます。私たちは、よく「あなたを手伝ってあげたいのだけれども、今は出来ない」とか、「彼を赦したいんだけど、彼は私を傷つけたの」と言うことがあります。

幸いにも、イエス様は今日の聖句の箇所、「だけど・しかし」という言葉を使っていません。主は、十字架につけられる前に、その聖句を通して、弟子たちにこうおっしゃいました。『わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。』イエス様は、私たちが完全な者ではなくても、私たちを愛し、受け入れてくださっています。主の弟子として、私たちはいかなる言い訳も無くして、互いに愛すべきです。

讃美歌 121

祈り 神様。あなたが愛して下さるように、どうか私も他人を愛することが出来るように助けてください。あなたの御子は、私のためにご自分の人生を犠牲にされました。どうか、私自身を犠牲にすることが出来るように、私を変えてください。イエス様の素晴らしい模範に感謝します。

主の御名を通して。アーメン。

シャロン・フォスター
テネシー州 マックエオエン

1月22日(木)

取り去ることの出来ない喜び

聖書朗読 ヨハネ 16:17～24

あなたがたにも、今は悲しみがあるが、わたしはもう一度あなたがたに会います。そうすれば、あなたがたの心は喜びに満たされます。そして、その喜びをあなたがたから奪い去る者はありません。

ヨハネ 16:22

砂浜から海を眺めるより、落ち着く景色はあまりありません。それに、子どもたちにとって、とても楽しい砂浜での遊びがいくつかあります。しかし、どんなに時間や努力を要して完璧なお城を作ってみたり、お堀を掘ってみたり、砂を押し固めたりしてしても、砂のお城は一時的なものです。波が全てを押し流してしまいます。

ヨハネの福音書16章17～24節で、イエス様は裏切られ、捕らえられる直前に、弟子たちに言われました。時間が限られていました。イエス様は彼らが直面する問題や悲しみに対して、これらの聖句を用いられました。

悲しみ、困惑、恐れに満ちた日々がやってくるでしょう。喜びを見つけることは難しくなるでしょう。しかし、イエス様がよみがえられて天にあげられた後、弟子たちはイエス様について伝えることへの脅しや迫害に遭っても、喜びにあふれることでしょう、と。

私たちの人生は、悲しみ、困惑、恐れでいっぱいです。私たちは、どうしてそんなことが起こるのか理解できません。しかし、イエス様にある喜びを得ることが出来ます。この喜びは、この世の一時的な喜び以上のものです。その喜びは、打ち寄せる波に流されてしまう砂のお城のようではありません。苦難に立ち向かうための神様が立ててくださった砦です。誰も私たちからこの喜びを取り去ることは出来ません。

讃美歌 第二編 72

祈り お父様。人生はやさしいものではありません。幸せな時間は、たいていすばやく過ぎ去ってしまいます。あなたにより頼む者に約束された喜びを、私たちが忘れないように助けてください。全ての人とその喜びを分かち合うことが出来ますように。

イエス様の御名によって。アーメン。

アンドリュー・フィリップス
テネシー州 コロンビア

1月23日(金)

いつでも奉仕の心を、いつでも死んでもいいように

聖書朗読 ヨハネ 21:15～19

キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです。

Iヨハネ 3:16

今日の朗読聖句の中に、愛を意味する二つの異なるギリシヤ語の単語があることがよく指摘されます。これは確かなことですが、この聖句を理解する鍵ではありません。この聖句を理解するための他の鍵を二つ私に指摘させてください。

最初の鍵は、神様への愛と、神の民への愛の関係です。ペテロがイエス様を愛しているなら、その主への愛は、神の羊の世話する(主の民を愛する)ことで証されねばなりません。愛を言葉にすることは、神の民に対する愛を实践することと同じでなければならないのです。

第二の鍵は、キリストに従う歩みとは、(主の御心ならば)殉教をもちとわなない歩みである、と言う点です。最初にペテロがイエス様についてくるように呼ばれたとき、彼は「イエス様に従う」ということが一体何なのか、しっかり理解出来ていませんでした。しかし今、カルバリの丘の出来事を通して、ペテロはキリストの弟子として歩むことの本当の意味[訳者注:主のみこころに自分自身を捧げるということ]を理解しています。彼は、今、行きたくないと思っているところにでも向かって行くという気持ちの準備が出来ているのです。

同様のことが、私たちにも2つの問として投げかけられているのではないのでしょうか。「今日、私が、神の民の誰かのために、力となって差し上げられるようなことはないか?」、また「私たちは行きたくないと思っている場所にでも、主のみこころなら出かけていくという気持ちがあるか?」という問いです。キリストは、このような愛と信仰、そして奉仕の精神を力づけてくださいます。

讃美歌 第二編 230

祈り 私たちのお父様、私たちはあなたのみこころを求めずに、あなたの祝福だけを探そうとしてしまうことをここに告白します。どうかそのような私たちをお許してください。どうかあなたを愛し、受けるよりも与えることを追い求めることが出来ますように、導いて下さい。イエス様がなされたように、私たちも積極的に恵みを分かちあうことが出来ますように、助けて下さい。

イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

サイアー・サリスベリー
オハイオ州 トレド

1月24日(土)

待 つ と い う こ と

聖書朗読 使徒 1:1~5

私は主を待ち望みます。私のたましいは、待ち望みます。私は主のみことばを待ちます。
詩篇 130:5

勝利、愛、喜びなどの単語は、私たちをワクワクさせたりするものです。

しかし、「待つ」ということは、それらの単語の中に含まれていないかもしれません。いったい、誰が待つということを簡単に受け入れることが出来るでしょうか？ 買い物の際、検査の結果を待っている間、郵便が来ないかを待っている時を想像してみてください。待つということ、簡単なことではありません。その期間が、しばらく続くようでしたら、なおさら、待つということは容易ではないでしょう。しかし、待つということが必要である時もあるのです。

使徒の働きの中で、イエス様が弟子たちに最初に言われたことは「待ちなさい」ということでした。「行きなさい」でも、「話しなさい」でもありませんでした。「待ちなさい」という言葉でした。使徒の働き1章4節にはこうあります。『エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。』 聖霊によって力づけられるまで、待ちなさい。素晴らしい召命がもたらされるまで、待ちなさい。もうすぐあなたの召命への扉が開かれるでしょう。しかし、今ではありません。もう少ししばらく待ちましょう。

ハバクク書2章3節は、忍耐の無いソバククへの神様からの言葉でした。『この幻は、定めの時について証言しており、終わりについて告げ、まやかしを言ってはいない。もしおそくなくても、それを待て。それは必ず来る。遅れることはない。』。イザヤ書40章31節は、失望したイスラエルへの神のメッセージでした。『しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように翼をかって上ることができる。走ってもたゆまず、歩いても疲れない。』。初期の弟子たちには、次のような言葉がありました。『私たちは、信仰により、御霊によって、義をいただく望みを熱心に抱いているのです。』(ガラテヤ 5:5)。

今日、それは、あなたや私への神様からのメッセージかもしれません。「希望を持つ？」もちろん。「期待する？」もちろんのことです。しかし、今は、「待ちなさい」ということが神様からの言葉なのです。

讃美歌 298

祈 り 天のお父様。あなたの恵みの中にあって私たちが成長するように、あなたは待っておられます。どうか私たちが、あなたとあなたの聖霊とあなたの御子の再来を待つことが出来ますように。

あなたの力強い御名を通して祈ります。アーメン。

ポール・L・ワトソン

ノースキャロライナ州 ダーラム

1月25日(日)

与えることが出来るめぐみ

聖書朗読 使徒 20:25~35

与えなさい。そうすれば、自分も与えられます。人々は量りをよくして、押しつけ、揺すり入れ、あふれるまでにして、ふところに入れてくれるでしょう。あなたがたは、人を量る量りで、自分も量り返してもらうからです。
ルカ 6:38

数年前、私たちの教会に招かれたゲストスピーカーの牧師さんとその奥さんが、私の自宅で夕食を共にする機会がありました。今は、彼らの名前をもう思い出すことが出来ません。しかし、彼らがしたことをはっきりと覚えています。私たちが夕食を終えた後、その牧師さんは、私の母に夕食の感謝をして、椅子から立ち上がり、「どこに洗剤があるか教えてくださいませんか？ 夕食のかたづけを私がしますから」と言ったのです。

言うまでもなく、私たちはびっくりしました。さらに、その後に起こったことは、十代だった私を感動させました。私の母がその牧師さんの申し出を丁重に断ると、彼の奥さんは優しく次のように言いました。「どうか彼にやらせてあげてください。そうすることで、彼自身が祝福されるのよ」。

このゲストスピーカーは、神さまの祝福に与る秘訣をよく心得ている人でした。すなわち、私たちは与える時にこそ恵みに与る、という主の教えです。それは、人間的な論理を真っ向から覆すような価値観です。私たちがイエス様のように見返りを求めずに他人に与える人となる時にこそ、私たちは神を映す者へと変えられていくのです。その神とは、すべての善きものを備え給う私たちの主なる神です。

その日、私は素晴らしい教えを彼らのやりとりから学びました。それは、イエス様の生き様や、エペソでパウロが弟子たちに教えたことと同じです。「受けるより、与えるほうが幸いです。」(使徒 20:35)。私たちが誰かにとっての恵みとなる時、私たちも恵みに与るのです。私たちが与える時、それは私たちにとって祝福となるのです。

讃美歌 391

祈 り 愛の神様。どうか私たちが他の人たちにとって、恵みとなることが出来ますように、今日私たちを用いてください。イエス様がされたように、私たちも与える時、そこには必ず祝福があることを私たちが忘れることがありませんように。

イエス様のみ名によって。アーメン。

ジャン・セッションズ

ジョージア州 マリエッタ